

家族の犯罪被害不安89%

淑徳大読売 ②

共同千葉県調査

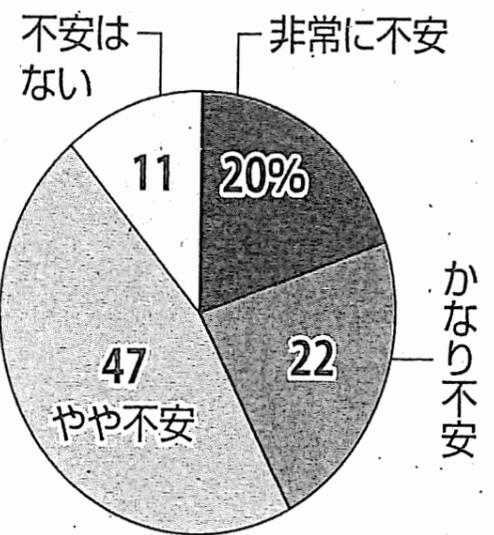
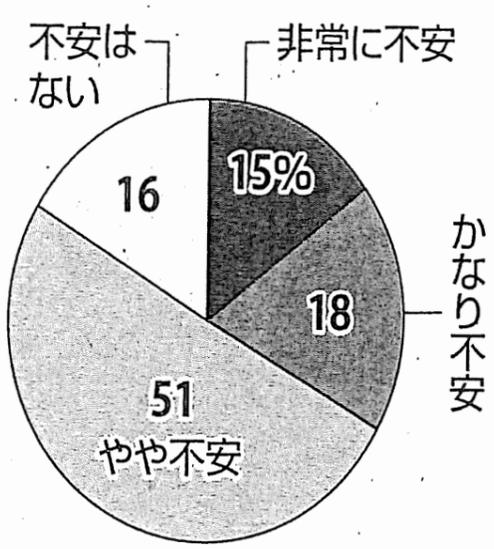
県警によると、2023年の県内の刑法犯認知件数は3万7538件に上る。犯罪が発生すると、被害者だけでなく伝え聞いた人にも影響が及ぶ。不安が高まり、体感治安が悪化する可能性もある。

「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」では、犯罪不安

に関する項目を設定し、県民の意識を調査した。

犯罪の種類を問わず、回答者自身が犯罪の被害に遭う不安を尋ねたところ、33・3%が「非常に不安」または「かなり不安」と答えた。「やや不安」(50・6%)も合わせると、83・9%が不安を感じていた。

回答者の同居家族が犯罪被害に遭うことについては、42・3%が「非常に不安」または「かなり不安」と答えた。「やや不安」(46・5%)を



※小数点以下は四捨五入

20~40代女性 高い傾向

含めると、不安を感じている人の割合は88・8%に上る。この結果からは、自分よりも家族が犯罪被害に遭うことに対して不安になる傾向が見受けられる。「非常に不安」または「かなり不安」に限ると、家族の犯罪被害に不安を感じる人は9・0%多かった。

性別と年齢層別に「非常に不安」または「かなり不安」の割合を分析すると、自身が犯罪の被害に遭う不安と同居家族が犯罪の被害に遭う不安のいずれでも、20~40歳代の女性が高い。

次に、犯罪の種類別で、①自宅への泥棒②自分の乗り物や持ち物に対する窃盗③生命に関わる殺人や放火・テロなど④ひったくり・恐喝・痴漢など屋外での犯罪⑤自宅や自動車などの落書き・損壊⑥電話de詐欺や悪質商法——の六つについて、不安を感じて

いる程度を尋ねた。

「非常に不安」「かなり不安」の回答者の割合は、①自宅への泥棒(34・0%)、②窃盗(32・8%)、③殺人や放火・テロなど(32・1%)、④ひったくり・恐喝・痴漢など(30・9%)、⑤自宅や自動車などの落書き・損壊(30・1%)、⑥電話de詐欺や悪質商法(29・9%)の順で高かった。

数年前を中心に、高齢者が資産状況や同居人の有無などを尋ねる電話を受けた後、自宅に押し入れられる「アポ電強盗」が目立った。住まいは生活の基盤であり、自宅を侵害されることへの不安が大きいことがわかる。

県警が摘発に力を入れていた電話de詐欺への不安は最下位だった。警戒心が高まらなければ、被害に遭わないようにするための対策を十分に取ることができない。高齢者が被害に遭うリスクが高かったが、最近はSNSを使った投資詐欺やロマンス詐欺など、若者などが巻き込まれるケースも増えており、ひとごとと思わず注意が必要だ。